

仙崎から市全域の活性化を



平成27年3月に策定した「仙崎地区グランドデザイン基本計画」。仙崎地区を交流拠点として整備し、仙崎を起点にさらなる交流人口の拡大を図り、市内全域へ人の流れを創出する計画となっています。

計画の背景

市では、若者の都市部への流出を食い止めるため、第1次産業を中心とした「所得の向上」と「雇用の創出」を目指して、平成25年9月に「ながと成長戦略行動計画」を策定し、実現に向けた取組を進めており、その取組の一つとして、「地元直売所の整備」を掲げています。

これを受け、平成26年9月に仙崎地区グランドデザイン基本構想策定委員会から「仙崎地区グランドデザイン基本構想」が提出されました。基本構想で

は、「食の拠点、文化の拠点および自然の拠点を有する仙崎地区を、本市の交流拠点として整備し、ここ仙崎の地から市内各地へ誘導する」という考え方が示されました。市では基本構想を基に直売所の整備を盛り込んだ「仙崎地区グランドデザイン基本計画」を策定しました。

仙崎地区グランドデザイン基本計画とは

基本的な考え方
「風 こだまするまち 仙崎」
人・自然に対するやさしさを基本に、仙崎地区の地域資源が

3つの整備プラン

●直売所・情報発信施設整備
地元の人も利用する交流の拠点施設として、長門市の農林水産物や土産品をそろえた直売所の整備を進めます。
また駐車場やトイレなどの休憩機能と、観光案内などの情報発信機能を有するとともに、長門の新鮮な魚や水産加工品、農産物を味わい、楽しめる「道の駅」機能を確保します。

●ウォーターフロント整備
レジャー客が仙崎の海に親しむことができ、青海島観光船などとの連携によって市場がにぎわい、海洋産業への経済効果を創出できるウォーターフロントの整備を推進します。

●まちなみ整備
金子みすゞの詩に描かれている仙崎地区の自然や風土、そして大正・昭和前期の風情を残すまちなみ、これら多くの地域資源を体感し楽しんでもらうため、趣のあるまちなみの再生を目指し、多くの人に足を運んでいただけるよう整備します。

直売所の運営について

●管理運営方針
■農林水産物の活性化
農林水産物を核とした直売所を整備し、積極的に第1次産業に従事する人に活用してもらうことで、生産意欲の拡大と所得向上につなげ、地域の農林水産物の活性化を目指します。
■観光産業等と連携した交流人口の拡大
地元漁港で水揚げされた水産物、地元農産物および加工品の購入、地元の新鮮な食材を使った料理の提供、観光情報の発信ができる場所とし、交流人口の拡大と市内各地への誘導を目指します。

■地元の人々の積極的活用
地元の人に愛され積極的に活用してもらえる施設を基本に、子どもから高齢者まですべての市民が集い、笑い、楽しみ、喜ぶ空間づくりを目指します。

■地域特産品のブランド力向上
数多くの長門市の特産品を販売することはもちろん、新たな商品開発を進め、「美味しく、求めやすく、食べやすい」商品が提供できる体制をつくります。

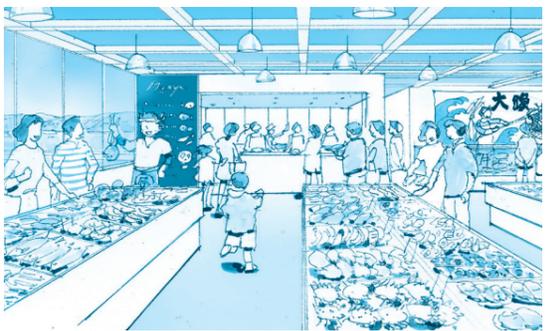
●管理運営のしくみ

直売所・情報発信施設には、直売施設、飲食施設など収益性が求められる「収益部門」と、休憩施設や情報発信施設など公益性が高い「公益部門」があります。民間のノウハウを最大限に活用し、収益性と質の高いサービスを確保するため、指定管理者が管理・運営します。
なお、収益部門の農林水産物直売施設は指定管理者の直営方式で運営、飲食施設などについては直営方式とテナント方式での運営のいずれかを検討します。

直売所の年間売上需要予測

直売所の売上需要予測は、「交流拠点の直売所」と、地元で愛される「地域密着型の直売所」の両面から想定し、算定しています。

●年間売上需要予測	4億3千万円
●年間利用見込者数	39万人
●観光需要	2億4千万円
●地元需要	1億9千万円
●観光利用見込者数	20万人
●地元利用見込者数	19万人



▲農林水産物の販売コーナーのイメージ

道の駅の登録

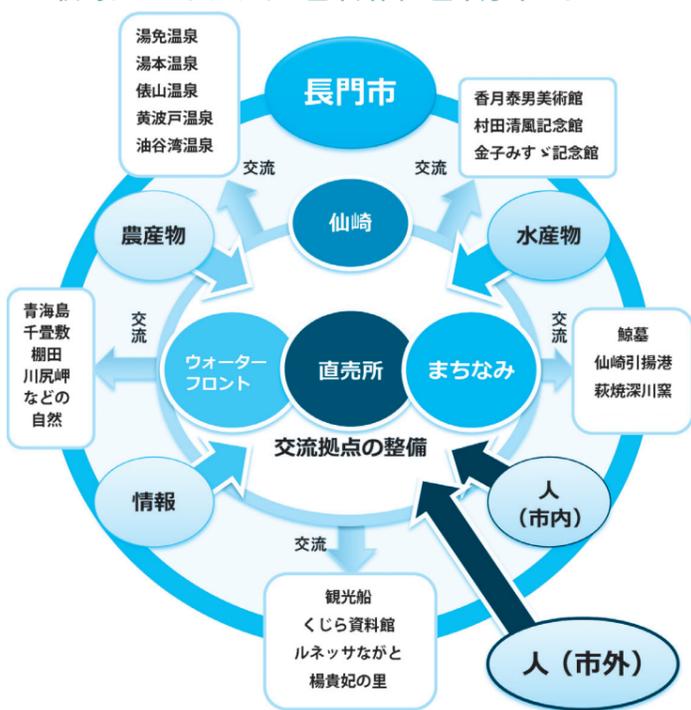
「ながと成長戦略行動計画」で示された整備スケジュールに基づき、先行的に直売所および情報発信施設等を整備します。また直売所は、道の駅登録を念頭に置いた整備を進めます。

魅力ある交流拠点施設の整備に向けて

市は、関係団体などと連携を図り、平成29年度の直売施設の開設を目指します。

●問い合わせ 成長戦略推進課
Tel 23・1267

仙崎グランドデザイン基本計画 基本方針のイメージ



有する魅力を最大限に引き出すことで「面」として展開し、滞在時間を伸ばすとともに、市内の他の観光地や温泉へ波及させ

るため、必要な整備を行い、仙崎地区から市内全域の活性化を目指すこととしています。
(右図参照)

施設整備基本計画 (現青海島観光基地内を整備)

施設	直売所・レストラン	休憩所・情報発信施設	駐車場周辺
施設整備方針	仙崎湾や観光船の出入りを眺めながら、買い物や食事が楽しめるよう東側に配置。眺望を阻害しないような透明性のある構造	「ショップ青海島」の内装・外観をリニューアルし整備	既存駐車スペースを、利用者にとって利便性の高い施設に再整備
規模	延床面積約 1,500㎡ (2階建)	延床面積約 900㎡	整備面積約 12,500㎡
導入施設など	農林水産物の販売/レストラン/冷凍・加工施設/体験交流施設/防災機能施設/展望デッキ/太陽光発電施設/トイレ	休憩スペース/プレイ施設/観光案内所/情報提供施設/トイレ	駐車場/電気自動車の充電施設/バスステーション/ランドマーク施設/野外イベントスペース